

電子記録債権の 適格担保化を決定

(二〇一三年十月四日)

▼日本銀行は、貸付等を行う際に金融機関から受け入れる担保として、電子記録債権を適格化します。

▼電子記録債権とは、債権の発生・消滅や帰属（誰が債権者か）が電子ファイルへの記録により定まる新しい金銭債権です。手形と異なり紙媒体の管理が不要なほか、売掛金等の指名債権と比べ債権の存在や帰属が明確で譲渡手続きも簡便といった特長があります。こうした点から、金融機関による割引やA・B・L（動産・債権担保融資）の担保としての活用等を通じ、中小企業を含む事業者の資金調達円滑化の効果が期待されています。また、シンジケート・ローンを電子記録債権の形で組成する動きもみられています。

全国銀行協会を母体とする記録機関「でんさいネット」の営業開始（二〇一三年二月）もあり、その利用も拡大しています。

▼日本銀行が電子記録債権を適格担保とすることで、その利便性向上とともに企業金融の円滑化にも資することが期待されます。

国際収支関連統計の 見直し

▼財務省・日本銀行は、わが国の国際収支統計や本邦対外資産負債残高などの国際収支関連統計について、二〇一四年一月の取引計上分から大幅な見直しを行います。

今回の統計見直しの主なポイントは、(1)二〇〇八年にIMFが公表した国際収支マニュアル第六版への準拠、(2)年次改訂制度の導入です。わが国の現行の国際収支関連統計は国際収支マニュアル第五版に準拠していましたが、見直し後は最新の国際基準に即したものとなります。最新基準への準拠によって、金融関連項目が拡充され、国民経済計算との整合性が強化されることにも、経済・金融活動を的確に把握するために、計上基準や集計方法なども変更されます。加えて、年次改訂制度の導入により、改訂頻度が向上し、改訂の対象統計も拡充されます。これらの見直しによって、公表数値の正確性と時系列計数の一貫性が高まるなど、統計利用者にとっての有用性が一段と向上します。

今回の見直しにあたり、財務省・

日本銀行は、報告者負担等に配慮しつつ、準備を進めてきました。国際収支関連統計の基礎データである報告書様式等を規定する「外国為替の取引等の報告に関する省令」の一部改正は二〇一一年十二月に公布しています。また日本銀行HPでは、移行後の報告内容について、報告書様式および提出要領等を掲載しています。

今後も、見直し後の国際収支関連統計の利用状況や報告者の報告負担等に適切に配慮しつつ、利用価値の高い統計を作成・公表していきます。

※詳細は日本銀行HPをご覧ください。
http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2013/ron131008a.htm/

日本銀行ホームページに スマートフォンサイトを追加

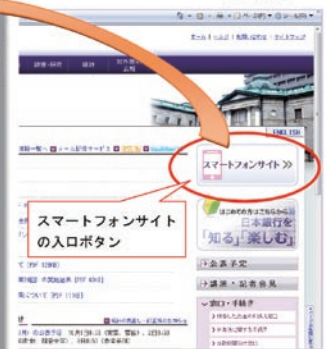
▼日本銀行では、スマートフォンによるHP閲覧者の利便性向上を目的に、一部にスマートフォンサイトを追加しました。

スマートフォン向けにシンプルな画面を用意しましたので、ぜひご利用ください。

(スマートフォン画面)



(PC画面)



日本銀行の新しい広報ビデオ 「くらしとつながる日本銀行」 をリリース

▼このたび、日本銀行では、日本銀行の役割や業務を紹介する広報ビデオ「くらしとつながる日本銀行」(約一八分)を作成しました。この「くらしとつながる日本銀行」は、高校生以上の方を対象に、お金を安心して使えることの大切さや、そのために日本銀行がどのような政策・業務を行っているかについて解説したビデオです。「お札博士」が、日々のくらしと日本銀行との接点を実感できるように、分かりやすく説明します。構成は、以下の通りです。



●安心してお金を使えるように①
きれいなお札の供給

お札がきれいな状態に保たれていることの大切さについて解説した上で、お札の偽造防止のための工夫や日本銀行の取り組みなどについて分かりやすく紹介しています。

●安心してお金を使えるように②
お金の価値の安定

お金の価値の安定（物価の安定）の大切さについて、身近な例を用いて解説し、「物価の安定」を図るために日本銀行が行っている金融政策などについて紹介しています。

●安心してお金を使えるように③
金融システムの安定

銀行振込みなど私たちが日ごろ行っているお金のやり取りが確実・円滑に行えること、すなわち金融システムが安定していることの大切さと日本銀行の取り組みなどについて

紹介しています。

●総裁メッセージ

日本銀行総裁 黒田東彦くろだ とうひこからのメッセージです。

▼「くらしとつながる日本銀行」は、日本銀行のHP上で全編視聴できますほか、YouTubeの公式チャンネル (<http://www.youtube.com/user/BOJchannel>) でもご覧いただけます。また、DVDやビデオテープの貸出も行ってあります。貸出をご希望の方はお電話でお申し込みください。また、このほかに、中学生向けの教育用広報ビデオ「お札と探検！日本銀行」（約二分）などもございますので、ご活用いただければ幸いです。

■DVDまたはビデオテープの貸出についてのお問い合わせ先

日本銀行情報サービス局

〇三三三七七二八二五（直通）

「にちぎん体験二〇三三」の開催

▼日本銀行本店では、十月二十八日（月）～十一月四日（月）（除く十一月二日（土））の期間に、「にちぎん体験二〇三三」を開催しました。本イベントでは、企画展、市民講座、本店見学ツアーを実施し、多くの方々にご来場いただきました。また、同期間中、貨幣博物館の臨時開館なども行いました。

▼企画展「お札のヒミツ大公開」では、写真パネルなどを使い、お札の歴史や、お札に施されているさまざまな工夫などを紹介し、お金について理解を深めていただきました。また、日本銀行が行っている業務についても、パネル展示や体験コーナーでご紹介しました。

▼平日（十月二十八日～十一月一日）に開催した「夜間市民講座」では、お金の歴史や電子マネー等お金をめぐる話題や、日銀本店本館の歴史などを、日銀職員が、写真や図などを使って分かりやすく説明しました。講座修了後、旧地下金庫などの見学もしていただきました。

▼十一月三日・四日には、「休日日本



企画展の体験コーナーでは、お札に印刷されたマイクロ文字（偽造防止技術の一つ）を拡大鏡を使って確認

店見学ツアー」として、通常平日のみに実施している見学ツアーを開催し、国の重要文化財に指定されている日本銀行本店の建物内部をご案内しました。

また、日本銀行の機能と業務や、本店本館の歴史について日銀職員が解説する「休日市民講座」も開催しました。

▼日本銀行では、今後も皆さまに楽しく学んでいただけるような催事を実施していきたいと考えておりますので、どうぞご期待ください。

なお、日本銀行本店見学ツアーは、平日であれば事前のお申込みにより随時ご参加いただけます。

※詳細は、日本銀行HPをご覧ください。
<http://www.boj.or.jp/about/services/kengaku.htm/>

編集後記

■「ゆとりをもって運転を」。この交通安全標語が、実は渋滞回避の標語でもあった。西成教授のお話は、そんなことも気付かせてくれます。常識に囚われ、目先の結果だけを追い求めて暮らしがちな我々。心の「ゆとり」を持っていろいろな新しい「発見」ができそうです。

「夜逃げの町」とも言われた宮崎県綾町。有機農業、アンテナショップ、酒造り、大吊橋…。この50年の地域興しの取り組みは、生産、加工、販売だけでなく、人集めも含めた、6次産業化そのもの。今でこそ当たり前ですが、このビジョンを50年前から描き始め、時代、世代が変わっても、軸をぶらすことなく貫いてきた地域の底力、DNAには驚嘆します。

「意志は固く、頭は柔らかく」。二つの話から、こんな言葉が浮かびます。

今回は、黒田総裁の特別インタビューを掲載しました。総裁就任後半年たったの感想や、日常生活など率直に語っています。ぜひご覧下さい。
(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (http://www.boj.or.jp/) をご覧ください。

にちぎん 2013年冬号
編集・発行人 丹治芳樹
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 音羽印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

日本銀行旧小樽支店 金融資料館来館者数が 百万人を突破!

開館十周年を迎えた日本銀行旧小樽支店金融資料館では、平成二十五年十月九日、百万人目のお客様をお迎えました。

百万人目のお客様は、社員旅行で北海道にいられた千葉県の男性お二人。認定証と記念品を贈呈したところ、大変驚いた様子で、「何気なく立ち寄ったら、百万人目に該当し誠に恐縮しております。とにかく光栄です」と感想を残されました。また、開館十周年と来館者数

百万人達成を記念し、同

十二日には

「来館者数

百万人達成記

念イベント」

を開催しまし

た。当日は、

資料館が開館

した年に生ま

れた地元小学四年生(十歳)四名を招待し、中松義治小樽市長と

日本銀行曾我野秀彦札幌支店長と共に「くす玉割り」を行いました。

中松市長からはお祝いの言葉もいただきました。



「認定証」と「記念品」を手に記念撮影



開館した年に生まれた地元小学生を招待し、お祝いにかけつけた小樽市長、札幌支店長と「くす玉割り」などのイベントを実施

せて展示しています。

今後も皆様に親しんでいただけるよう心がけて参りますので、多くの方のご来館をお待ちしております。

〈通常開館の時間〉

【開館時間】九時三十分～十七時(入館は十六時三十分まで)

【休館日】月曜日(ただし月曜日が

祝日・振替休日のときは、その翌

日以降の最初の平日)、年末年始

(十一月三十一日～一月五日)、こ

のほか、設備点検等のため臨時休

館することがあります。

【入館料】無料

【お問い合わせ先】

〇三三四―二二―二二